



仕事の手伝いをする決心を固め手伝うと共に  
祈ること東の間の晴れを呼ぶことができる  
晴れ女の陽菜の手伝いをします。そして、家  
出が元で搜索願を出されていた帆高は故郷へ  
戻り、その後陽菜と再会し、一緒に生きる決  
意を改めて認識することになるお話です。  
この本で気になったところは、当時高校一  
年生だった帆高が、フェリーで十時間以上も  
離れた東京に家出をしたところですよ。  
ここが気になった理由は、私とあまり年齢が  
変わらない帆高が、遠く離れた東京に家出を  
したからです。帆高が顔に傷を負いながら遠  
くに家出したのを読んで、私は多くの描写か  
ら父親と不仲であることがわかり、抑圧的な  
家庭環境にいた帆高がかわいそうだという気  
持ちになりました。  
また、帆高が陽菜の持つ能力に目をつけ、  
その能力を使った仕事をするところも  
気になりました。帆高はその時、弟を養うた  
めにお金が必要だった、両親のいない陽菜を

見たので、自分の状況と重ねるとともに、少しでも陽菜の役に立ちたいという気持ちだった。たのではないでしょうか。だから陽菜の持つ能力で、晴れを呼ぶ仕事をしたのだと思います。私は帆高の行動に対して頼もしいと感じました。私も帆高のようになりたいです。他にも、常に雨が降っていた状況を変えようとして能力を使い果たして消えてしまった。陽菜と再会するために、帆高が一生懸命に人と戦うところがありました。なぜなら帆高が本来晴れることを望んでいた。で、消えてしまった陽菜を取り戻すという。とは、再び雨が降り続けるという意に反した行為をしたので、不思議に思ったからです。私が帆高なら陽菜が大切だと思う反面、人と戦うのは怖いと感じます。また、常に雨という状況に戻ってしまうこともあり躊躇してしまいます。去年の秋、新人戦で私は試合にあえて出ないという選択をしました。なぜなら出たいという気持ちもありました。

たが、私より上手な後輩が試合に出た方が、  
チームの勝ちに近づくからです。このとき試  
合に出るために今まで練習をしてきたので残  
念だと思いう以上に、チームのことを考えて行  
動できてよかったという気持ちになりました  
このことから帆高も自分の願望を通すのでは  
なく相手のことを考えて、一番の願いが自分  
のことから相手のことへと変わったのかと考  
えました。  
この本のクライマックスでは帆高が故郷の  
高校を卒業し、再び陽菜と会った際に「僕達  
は大丈夫だ」と強く発言します。また、様々  
な経験を通して、帆高は不満を多く抱き自分  
のことを第一に考えていた子供から自分の意  
思を持ち環境を自分の力で変えていくような  
強い大人へと変わります。最初は不満を多く  
抱き自分のことばかり考えていた帆高が変わ  
った姿を見て、私は衝撃を受けました。そし  
て私も帆高のように自分の意思を持ち、自分  
の力で環境を切り拓ける人になりたいと思

